



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

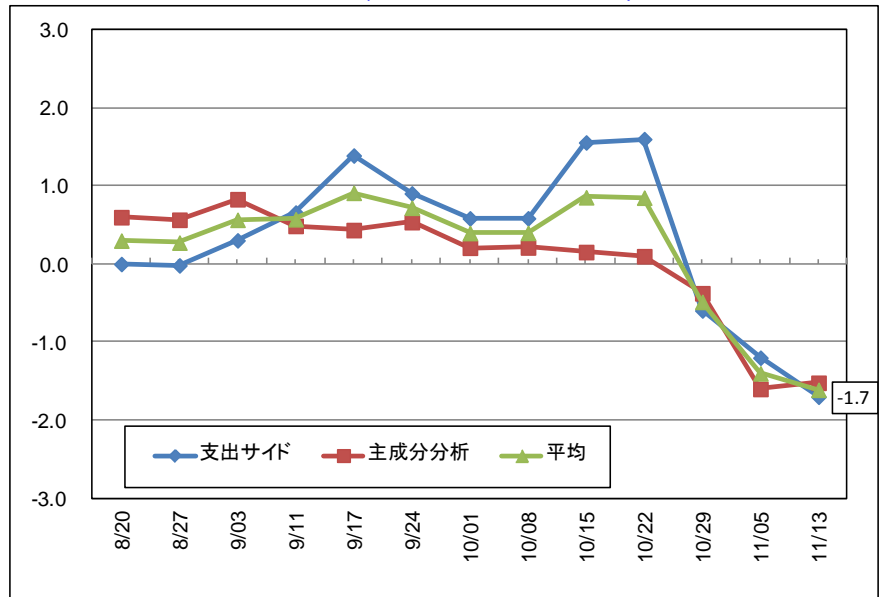
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail:inada-y@apir.or.jp

# 日本経済(週次)予測(2012年11月13日)

## ポイント

- ▶GDP1 次速報値によれば、7-9 月期の実質 GDP 成長率は前期比年率-3.5%となり、3 期ぶりのマイナス成長。市場コンセンサスからは下振れた結果となった。
- ▶超短期予測のパフォーマンスをみると、GDP 項目のうち、公的需要、純輸出はほぼピンポイントとなったが、民間需要が過小予測。特に、民間在庫品増減を低くみており、これが唯一の予測誤差となった。
- ▶超短期予測は 1 カ月以上市場コンセンサスに先行してマイナス成長を予測し、9 月下旬からは-3%程度の予測を一貫して発信。景気のトレンドと方向性を数値で早く正確に示せるのが超短期予測の特徴である。
- ▶新たな月次指標を更新した今週の CQM 予測(支出サイド)は、10-12 月期の実質 GDP 成長率を、内需は横ばい、純輸出は縮小するため前期年率-1.7%と予測。先行きについて、超短期予測は 2013 年 1-3 月期にはプラス成長に復帰することを予測。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2012Q4 (%、前期比年率換算)



## くしばらく景気後退色強まる日本経済：10-12 月期実質 GDP 成長率予測は-1.7%>

今週の予測では、10月の景気ウォッチャー調査、消費動向調査、国内企業物価指数、輸出入物価指数、9月の消費総合指数、第3次産業活動指数、情報サービス業売上高、民間機械受注及び国際収支状況が更新された。また12日に新たに発表された7-9月期GDP1次速報値が追加された。

GDP1次速報値によれば、7-9月期の実質GDP成長率は前期比年率-3.5%となり、3期ぶりのマイナス成長。市場コンセンサス(ESPフォーキャスト11月調査：同-2.83%)からは下振れた結果となった。4-6月期のほぼゼロ成長(同+0.3%)から大幅なマイナス成長に転じたことは、日本経済がすでに景気後退局面に入っていることを確認するものである。

超短期モデルの予測最終週におけるパフォーマンス(支出サイド：-4.6%)をみると、GDP項目のうち、公的需要、純輸出の寄与度はほぼピンポイントの予測結果となったが、民間需要が過小予測となった。特に、民間在庫品増減(寄与度)を実績同1.0%ポイントに対して予測は-0.1%ポイントとみており、これが唯一の予測誤差となった。ただ超短期予測は1ヵ月以上市場コンセンサスに先行してマイナス成長を予測し、9月下旬からは-3%程度の予測を一貫して発信した。景気のトレンドと方向性を数値で早く正確に示せるのが超短期予測の特徴である。

新たな月次指標を更新した今週のCQM予測(支出サイド)は、10-12月期の実質GDP成長率を、内需は横ばい、純輸出は縮小するため前期年率-1.7%と予測する。先週の予測(-1.2%)から下方修正となった。先行きについて、超短期予測は2013年1-3月期にはプラス成長に復帰することを予測している。純輸出が横ばいとなり内需が回復するためである。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。  
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。  
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6441-0550